



はじめに

私達の住む地域社会の状況は、少子高齢化、価値観の多様化、人口減など急速な変化の中で高齢者や子供、障がい者だけでなく、住民みんなが何かしら悩みや困りごとを抱えて不安な中で暮らしています。それだけに誰もが安心安全安定して暮らせる地域福祉の推進は、地域のすべての人が対象であり、担い手でもある時代を迎えています。

その担い手の先駆けとして、延岡市社会福祉協議会は、区長、民生児童委員を中心に地域福祉推進チームなど各ボランティア団体、個人と交流連携しながら、22の各地区社会福祉協議会と共に地域福祉を推進して参りました。今後、在宅での福祉、医療、保健などが充実されていく一方で、家庭や地域のきずなは弱くなっており、ますます多様な生活課題が出てきております。それだけに地域住民、社協、行政が連携協働して創意工夫し、さらなる一歩を進めなければなりません。

延岡市は、平成18年3月に「誰もが安心して健やかに暮らせる地域社会の実現」の理念のもと「延岡市地域福祉計画」を策定し、平成23年3月に見直して第2期計画を策定し、平成28年3月に平成32年度までの第3期計画を策定されました。延岡市社会福祉協議会は、「みんなでつくろう 支え合う地域社会」の理念のもと平成9年3月に平成13年度までの「第1次延岡市地域福祉活動計画」を策定し、その後7年間、社会情勢や合併などの変化を見据えて平成21年3月に第2次活動計画を策定して、平成26年7月に第3次活動計画を策定。このたび、平成33年度までの「第4次延岡市地域福祉活動計画」を策定しました。この活動計画は、介護保険法改正などの社会環境変化を踏まえて、延岡市社会福祉協議会が地域住民の皆様や関連する団体とネットワークを強化し、支え合いを協働実践して一歩を進める行動支援計画であります。

私達の住む地域を誰もがその人らしく安心安全安定して暮らすことのできるようにするためには、そこに住む人たちの主体的な取り組みが必要です。私達の地域を良くするのは、他人でなく私達一人一人の生き方にかかっています。お互いを思いやり、すべてを受け止めて尊重し支え合える地域社会を共に問題解決しながら力を合わせて創っていきましょう。

最後に、活動計画策定にご尽力を頂きました井上孝徳委員長はじめ策定委員会各委員の皆様、貴重なご意見を頂きました市民の皆様にご心から感謝しお礼申し上げます。

平成29年3月

社会福祉法人 延岡市社会福祉協議会
会 長 柳田 泰宏



延岡市地域福祉活動計画策定にあたって

「誰でもが住み慣れた地域の中で、尊厳を持って、自立した生活を営むことできる地域」「安心安全な地域」は、全国各地で、関係者が懸命に取り組んでいる地域福祉の究極の到達目標である。しかし、地域の方々から、伝え聞く言葉は「福祉のまちになった気がしない」という言葉である。誰でもが望んでいる地域の姿であるはずなのである。

さて、我が国は、人口減少社会、少子高齢社会という社会構造の中で、様々な問題・課題に直面している。社会保障政策は、経済や社会の有り様と無縁ではありえない。国から発出される社会保障関係の政策文書は、「拡大発展」という言葉はあまり見受けられなくなってきている。「拡大」ではなく「維持・存続」していくにはどのようにしていくかが大きな論点課題となってきたように思われる。近年の年金制度、介護保険制度、医療保険制度等の改革は、いずれも維持・存続するための制度の改編として位置付けられるものであろう。

こうした状況の中で、私たちの生活の周りでは、介護、認知症、貧困、孤立、悪質商法被害、虐待、等々住み慣れた地域の中で自立した生活を継続していける安心・安全な生活を脅かす様々な問題が表れている。こうした社会的、地域的課題の解決は、公的制度だけでは対応することには限界がきている。そのためには、「自助」「互助」「共助」「公助」という重層的な仕組みを住み慣れた日常生活圏域に構築していくことが必須条件なのである。その上に立って、医療、保健、介護、福祉、生活関連分野の公的制度の連携や住民福祉活動など制度に拠らない連携を総合的に組み合わせた支援としての地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題になってきている。さらに、高齢、障害、児童、生活困窮といった個別の課題対応だけでなく、こうした問題課題が複層的に表れる世帯を対象とする全世代全対象型地域包括ケアシステムの構築が求められている。つまり、医療、保健、介護、福祉などの公的制度が地域生活のしにくさを抱えた人々を住み慣れた地域で尊厳を持って自立した生活が可能となるよう、地域サービスとして展開し連携していく力と、ご近所の底力、住民の底力、地域の底力という地域の福祉力という2つの力が合わさってこそ、安心安全な地域になりうるのではないかと考えられている。

地域づくりは、一朝一夕に出来上がるものではない。こうした地域に起こる問題を「他人事」ではなく「我ごと」として受け止め、アイデアを出し合い、その地域、地域に合った仕組みとして、根気強く創りあげるものだと思っている。そうした意味で本計画が関係者、並びに地域の方々に共有化され、住みよいまちづくりに向けて、連携・協働の実践が展開されることを願って止まない。最後に本計画の策定にご尽力いただいた関係各位の方々に感謝申し上げるとともに、延岡市民の方々のご理解とご協力のもと、地域福祉がますます発展していくことを祈っている。

平成29年3月

第4次延岡市地域福祉活動計画策定委員会
委員長 井上 孝徳